

2022年度 和泉短期大学 シラバス

| | | | | | | |
|------------------|---|--|---------------------------------|-------|-----|---|
| 授業科目名 | 子ども理解と保育 | | 教員氏名 | 矢野由佳子 | | |
| 科目ナンバー | Ⅲ-6-3-3 | | | | | |
| 学年 | 2年 | | 開講学期 | 前期 | | |
| 授業形態 | 演習 | | 単位数 | 1単位 | | |
| 必修・選択 | 保育士・幼免必修 | | 実務経験 | 臨床心理士 | 16年 | |
| テーマ | 子ども理解の方法を学び、保育者としての基礎的な態度を身に付ける。 | | | | | |
| ディプロマポリシー | 1.保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。 2.保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。 3.保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。 | | | | ○ | |
| カリキュラムポリシー | 科目群Ⅰ 教養 | キリスト教主義の精神を踏まえて、保育と人権にかかわる人としての価値観を再構築する | | | | |
| | 科目群Ⅱ 原理 | 様々な世代を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕に基づく人間観を養う | | | | |
| | 科目群Ⅲ 知識・技能 | 子どもの心と体とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける | | | | ○ |
| | 科目群Ⅳ 実践 | 学んだ知識、技能、価値観を現場に即して臨機応変に実践できる体験を積み、キャリア形成の基礎を培う | | | | |
| 授業の概要 | この授業は、子ども理解に必要とされる発達や学びの過程とメカニズムを捉えたうえで、観察法等の具体的な方法を学びます。同時に、自己理解のワークにより保育者としての自分の見方や特徴を知ります。授業では、映像教材や事例を用いて実践的に考えと共に、子どもの言動を観察して記録をとる実習課題を設けます。学生は観察記録を発表しあい議論を展開することで、子ども理解の重要性に気づき、保育者としての基礎的な態度を理解します。授業担当者は臨床心理士として保育園、小児科での勤務経験があり、その経験をもとにカウンセリングマインドへの理解を深めます。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | 1. 発達や学びの視点から子どもを理解して、言動の意味を説明できる。 2. 子ども理解の具体的な方法を学び、実施できる。 3. 保護者の心情を理解し、保育者としての対応を考え応用できる。 | | | | | |
| テキスト | 青木紀久代編『なぜ？から探る子ども理解と援助』みらい | | | | | |
| 参考書 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 | | | | | |
| ポートフォリオ | 授業で作成した発表資料をポートフォリオに綴じる | | | | | |
| 往還型授業 (双方向授業) | 授業内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点を、対話を通じて授業内で明確にする | | | | ○ | |
| | リアクションペーパーを用いて、授業内での疑問等を対話形式にて対応する | | | | ○ | |
| | リアクションペーパーの内容やテーマをICTを用いて授業内で受講者全員に公開・共有し、往還的理解を深める | | | | ○ | |
| | ICT(グループクラスルーム含む)を活用した課題提示・回収、アンケート等を実施する | | | | ○ | |
| | その他: 分散授業(対面授業7:オンライン授業6【ハイブリッド型・オンデマンド型・自己学習型】) | | | | ○ | |
| 成績評価方法 | 区分 | 割合(%) | 内容 | | | |
| | 定期試験 | 0 | 実施しない | | | |
| | 授業内課題 参加度 出席態度等 | 100 | 課題(40%)、授業内試験(30%)、授業態度と意欲(30%) | | | |
| | その他 | | | | | |

授業概要と課題

| | | | |
|-----|-----------|--|-----|
| 第1回 | テーマ 内容 | オリエンテーション:これまでの学びをふり返り、子ども理解の視点について考える。 | |
| | 授業外学習 | <予習>シラバスを熟読する。 <復習>教科書第1章を読み、子ども理解について確認する。 | 55分 |
| 第2回 | テーマ 内容 | 共感的理解と子どもとの関わり① | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第2章を読み、インタビューの実施計画を立てる。 | 55分 |
| 第3回 | テーマ 内容 | 子ども理解の視点①:子どもの生活や遊び | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第3章を読み、保育における子ども理解について考える。 | 55分 |
| 第4回 | テーマ 内容 | 子ども理解の視点②:心の発達と人的環境としての保育者 | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第4章を読み、保育者の役割について考える。 | 55分 |
| 第5回 | テーマ 内容 | 子ども理解の視点③:発達における葛藤やつまずき | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第7章を読み、発達の支援について考える。 | 55分 |
| 第6回 | テーマ 内容 | 子ども理解の視点④:保育環境の理解と構成 | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第8章を読み、保育環境の意義を考える。 | 55分 |
| 第7回 | テーマ 内容 | 子ども理解と援助の実際①:職員間の対話 | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第10章を読み、職員間の対話の意義を考える。 | 55分 |
| 第8回 | テーマ 内容 | 子ども理解と援助の実際②:保護者との情報共有 | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第11章を読み、保護者との信頼関係を築く工夫を考える。 | 55分 |
| 第9回 | テーマ 内容 | 子ども理解と援助の実際③:発達の課題に応じた援助と関わり | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第12章を読み、発達検査の意義を考える。 | 55分 |

| | | | |
|------|-----------|--|-----|
| 第10回 | テーマ 内容 | 子ども理解と援助の実際④: 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第13章を読み、様々な家庭への支援を考える。 | 55分 |
| 第11回 | テーマ 内容 | 子ども理解と援助の実際⑤: 発達連続性と就学への支援 | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第14章を読み、様々な就学支援とその意義を考える。 | 55分 |
| 第12回 | テーマ 内容 | 共感的理解と子どもとの関わり②インタビューした内容を発表して共有する。(グループディスカッション) | |
| | 授業外指示 | <予習>インタビューした内容を整理し、考察する。 <復習>発表を通して感じたこと、得られたコメントから振り返りを行う。 | 55分 |
| 第13回 | テーマ 内容 | 授業のふり返りとまとめ | |
| | 授業外指示 | 授業内で作成した発表資料を整理してポートフォリオに綴じる。 | 55分 |

課題に対するフィードバックの方法

授業で行うディスカッションなどはワークシートに記録し、毎回提出する。提出された内容は、次回授業時に口頭やプリントにてフィードバックを行う。また、担当教員のオフィスアワー(水曜日昼休み)に質問を受け付ける。

2022年度 和泉短期大学 シラバス

| | | | | | |
|--------------|---|--|-------------------------|-------|----|
| 授業科目名 | 子ども理解と保育 | | 教員氏名 | 岡田啓子 | |
| 科目ナンバー | Ⅲ-6-3-3 | | | | |
| 学年 | 2年 | | 開講学期 | 前期 | |
| 授業形態 | 演習 | | 単位数 | 2単位 | |
| 必修・選択 | 保育士・幼免必修 | | 実務経験 | 発達相談員 | 7年 |
| テーマ | 子ども理解の方法を学び、保育者としての基礎的な態度を身につける | | | | |
| ディプロマポリシー | 1.保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。 2.保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。 3.保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。 | | | | ○ |
| カリキュラムポリシー | 科目群Ⅰ 教養 | キリスト教主義の精神を踏まえて、保育と人権にかかわる人としての価値観を再構築する | | | |
| | 科目群Ⅱ 原理 | 様々な世代を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕に基づく人間観を養う | | | |
| | 科目群Ⅲ 知識・技能 | 子どもの心と体とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける | | | ○ |
| | 科目群Ⅳ 実践 | 学んだ知識、技能、価値観を現場に即して臨機応変に実践できる体験を積み、キャリア形成の基礎を培う | | | |
| 授業の概要 | 本科目では、子ども理解に必要なとされる発達や学びの過程とメカニズムを捉えたうえで、観察法等の具体的な方法を学ぶ。同時に、自己理解のワークにより保育者としての自分の見方や特徴を知る。授業では、映像教材や事例を用いて実践的に考えると共に、子どもの言動を観察して記録をとる実習課題を設ける。学生は観察記録を発表しあい議論を展開することで、子ども理解の重要性に気づき、保育者としての基礎的な態度を理解する。また、担当教員がもつ実務経験(発達相談員として保健センターに勤務、乳幼児健診を行う保健師向けの講座を担当)に基づく具体的な解説を通して、子ども理解および保護者の心情の理解を深める。 | | | | |
| 授業の到達目標 | 1.発達や学びの視点から子どもを理解して、子どもの言動の意味を説明できる | | | | |
| | 2.子どもを理解するための具体的な方法を学び、実施できる | | | | |
| | 3.保護者の心情を理解し、保育者としての対応を考え、応用できる | | | | |
| テキスト | 青木紀久代編『なぜ？から探る子ども理解と援助』みらい | | | | |
| 参考書 | 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 | | | | |
| ポートフォリオ | なし | | | | |
| 往還型授業(双方向授業) | 授業内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点を、対話を通じて授業内で明確にする | | | | ○ |
| | リアクションペーパーを用いて授業内での疑問等を対話形式にて対応する | | | | ○ |
| | リアクションペーパーの内容やテーマをICTを用いて授業内で受講者全員に公開・共有し、往還的理解を深める | | | | |
| | ICT(Googleクラスルーム含む)を活用した課題提示・回収、アンケート等を実施する | | | | ○ |
| 成績評価方法 | 区分 | 割合(%) | 内容 | | |
| | 定期試験 | 0 | 実施しない | | |
| | 授業内課題参加度出席態度等 | 70% | 授業内課題(40%)、授業態度と意欲(30%) | | |
| | その他 | 30% | 授業内小テスト | | |

授業概要と課題

| | | | |
|-----|-----------|---|-----|
| 第1回 | テーマ 内容 | オリエンテーション・子ども理解とは:これまでの学びを振り返り, 子ども理解の視点について考える | |
| | 授業外学習 | 保育における子ども理解に関して、他の科目におけるこれまでの学びを振り返る／子どもの発達に応じた保育者の役割について、授業で学んだ内容をまとめる | 55分 |
| 第2回 | テーマ 内容 | 子どもに対するかかわりと共感的理解 | |
| | 授業外指示 | 保育におけるカウンセリングマインドについて、授業で学んだ内容をまとめる。 | 55分 |
| 第3回 | テーマ 内容 | 子どもの生活／保育者としての自己理解:自分を知ること, 自分の課題 | |
| | 授業外指示 | 演習でとらえた自分の特徴から、子どもを理解するうえで強みとなる点と課題を整理する 乳幼児の生活について、整理する | 55分 |
| 第4回 | テーマ 内容 | 子どもの遊び／子ども相互のかかわりと関係づくり | |
| | 授業外指示 | 子どものあそびの変化や保育者対子どもの関係づくりについて、授業で学んだ内容をまとめる | 55分 |
| 第5回 | テーマ 内容 | 集団における経験と育ち:観察法①(観察の仕方を学ぶ) | |
| | 授業外指示 | 個の発達と集団の発達の関係について、動画視聴を行い、その後のグループワークを通じて気づいたことをまとめる | 55分 |
| 第6回 | テーマ 内容 | 発達における葛藤やつまづき:観察法②(観察対象を決めて、一定時間の観察の記録をとる) | |
| | 授業外指示 | 子ども同士のけんかや、シャイな子ども、自己制御について整理する | 55分 |
| 第7回 | テーマ 内容 | 発達の課題に応じた援助とかかわり:個人差と気になる子ども | |
| | 授業外指示 | 発達における個人差と気になる子どもの違いについて整理し、自分の言葉で説明できるようにする | 55分 |
| 第8回 | テーマ 内容 | 特別な配慮を要する子どもの理解と援助／保護者支援 | |
| | 授業外指示 | 特別な配慮を必要とする子どもの特徴や個に合わせた支援方法について、まとめる | 55分 |
| 第9回 | テーマ 内容 | 観察法③:子どもの発達記録をまとめ、発表の準備を行う | |
| | 授業外指示 | 観察記録を完成させて、対象となる子どもの発達の特徴を整理する | 55分 |

| | | | |
|------|-----------|--|-----|
| 第10回 | テーマ 内容 | 観察法④: 観察した内容を発表しあい, 意見交流を行う | |
| | 授業外指示 | ほかの学生の発表を聞いて学んだことをまとめる | 55分 |
| 第11回 | テーマ 内容 | 保護者の心情理解 | |
| | 授業外指示 | 授業を振り返り, 保護者の心情を理解するために大切なことがらを整理する | 55分 |
| 第12回 | テーマ 内容 | 保護者の心情理解と保育者の支援: 面接法 | |
| | 授業外指示 | 保護者との情報共有のポイントや保護者の抱える心情について学んだことをまとめる | 55分 |
| 第13回 | テーマ 内容 | 授業のふりかえりとまとめ | |
| | 授業外指示 | シラバスに書かれている到達目標について自己点検を行い, 振り返りシートに記入する | 55分 |

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題および試験は、回収したのちコメントの記入や採点をして返却する。また、返却時には、全体に向けて取り組みの成果と今後の課題についてフィードバックを行う。

2022年度 和泉短期大学 シラバス

| | | | | | |
|------------------|---|--|---------------------------------|-------------|-----|
| 授業科目名 | 子ども理解と保育 | | 教員氏名 | 村上葉月 | |
| 科目ナンバー | Ⅲ-6-3-3 | | | | |
| 学年 | 2年 | | 開講学期 | 前期 | |
| 授業形態 | 演習 | | 単位数 | 1単位 | |
| 必修・選択 | 保育士・幼免必修 | | 実務経験 | 幼稚園教諭・臨床心理士 | 5,4 |
| テーマ | 子ども理解の視点や方法を学び、保育者としての基礎的な態度を身に付ける。 | | | | |
| ディプロマポリシー | 1.保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。 2.保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。 3.保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。 | | | | ○ |
| カリキュラムポリシー | 科目群Ⅰ 教養 | キリスト教主義の精神を踏まえて、保育と人権にかかわる人としての価値観を再構築する | | | |
| | 科目群Ⅱ 原理 | 様々な世代を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕に基づく人間観を養う | | | |
| | 科目群Ⅲ 知識・技能 | 子どもの心と体とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける | | | ○ |
| | 科目群Ⅳ 実践 | 学んだ知識、技能、価値観を現場に即して臨機応変に実践できる体験を積み、キャリア形成の基礎を培う | | | |
| 授業の概要 | この授業では、子どもの姿が表すものを理解するためには、どのような視点から何を捉えていく必要があるのか、具体的に考えていきます。さらに、「子ども理解」が実際の「援助」に及ぼす影響、そして、理解を深めるための観察・記録・周囲との連携の取り方などの手段についても学びます。授業では、事例や映像をもとにした討議・グループワークを用いて実践的に考えると共に、映像を視聴し、子どもの言動を観察して記録をとる課題も設けます。学生はグループワーク等を通して、子ども理解の基本的な考え方を身につけると同時に自分自身の考え方も振り返り、保育者としての援助や基本的態度を理解します。授業担当者は幼稚園教諭・臨床心理士として園や学童、乳児院、健診事業などの勤務経験があり、その経験をもとに、子どもを見る視点の大切さについて理解を深めます。 | | | | |
| 授業の到達目標 | 1. 一人一人の心身の発達や学びの視点から子どもを理解して、子どもの言動の意味を説明できる。 2. 子ども理解に基づいた保育者の援助を考え、応用できる。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解し、実施できる。 | | | | |
| テキスト | 青木紀久代編『なぜ？から探る子ども理解と援助』みらい | | | | |
| 参考書 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 | | | | |
| ポートフォリオ | 授業で作成した発表資料をポートフォリオに綴じる | | | | |
| 往還型授業 (双方向授業) | 授業内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点を、対話を通じて授業内で明確にする | | | | ○ |
| | リアクションペーパーを用いて授業内での疑問等を対話形式にて対応する | | | | ○ |
| | リアクションペーパーの内容やテーマをICTを用いて授業内で受講者全員に公開・共有し、往還的理解を深める | | | | |
| | ICT(-googleクラスルーム含む)を活用した課題提示・回収、アンケート等を実施する | | | | ○ |
| | その他: | | | | |
| 成績評価方法 | 区分 | 割合(%) | 内容 | | |
| | 定期試験 | 0 | 実施しない | | |
| | 授業内課題参加度 出席態度等 | 100 | 課題(40%)、授業内試験(30%)、授業態度と意欲(30%) | | |
| | その他 | | | | |

授業概要と課題

| | | | |
|-----|-----------|---|-----|
| 第1回 | テーマ 内容 | オリエンテーション・子ども理解とは①:これまでの学びのふり返り・子ども理解の視点 | |
| | 授業外学習 | <予習>シラバスを熟読する。 <復習>教科書第1章を読み、子ども理解について確認する。 | 55分 |
| 第2回 | テーマ 内容 | 子ども理解とは②:保育者としての自己理解と保育者としての姿勢 | |
| | 授業外指示 | <予習>教科書第2章のエピソード(1)を読み、「子どもに共感する」ということは、一体どのようなことをいうのか考える。 <復習>教科書第2章を読み、保育者としてどのような姿勢で子どもと向き合うか考える。 | 55分 |
| 第3回 | テーマ 内容 | 子どもを理解する視点①:子どもの生活や遊びと人的環境としての保育者 | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第3章・第4章を読み、子どもの生活や遊び・人的環境としての保育者について考える。 | 55分 |
| 第4回 | テーマ 内容 | 子どもを理解する視点②:子ども相互の関わりや関係づくりと、集団における経験と育ち | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書5章・第6章を読み、個と集団の育ちの過程について考える。 | 55分 |
| 第5回 | テーマ 内容 | 子どもを理解する視点③:葛藤やつまづき | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書7章を読み、自分が各エピソードに出てくる保育者の立場ならばどのように援助するか考える。 | 55分 |
| 第6回 | テーマ 内容 | 子どもを理解する視点④:保育環境の理解と構成 | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第8章を読み、保育における環境の大切さについて考える。 | 55分 |
| 第7回 | テーマ 内容 | 子どもを理解する方法①:観察(フィールドワーク)・記録・省察・評価 | |
| | 授業外指示 | <予習>教科書第9章を読み、観察の視点を確認する。 <復習>映像を視聴し、記録をとる。 | 55分 |
| 第8回 | テーマ 内容 | 子どもを理解する方法②:職員間の対話・模擬カンファレンスの実施 | |
| | 授業外指示 | <予習>教科書第10章を読み、保育カンファレンスについて確認する。模擬カンファレンスの準備を行う。 <復習>模擬カンファレンスを通して感じたこと、得られたコメントから振り返りを行う。 | 55分 |
| 第9回 | テーマ 内容 | 子どもを理解する方法③:保護者との情報共有(フィールドワーク) | |
| | 授業外指示 | <予習>教科書第11章を読んだ上で、身近な子育て経験者にインタビューを行う。 <復習>インタビューを通して気付いたことを整理する。 | 55分 |

| | | | |
|------|-----------|---|-----|
| 第10回 | テーマ 内容 | 子どもを理解する方法④: インタビュー内容の発表 | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>自分自身の発表・クラスメイトの発表を通して気付いたことを整理する。 | 55分 |
| 第11回 | テーマ 内容 | 子ども理解に基づく発達援助①: 発達の課題に応じた援助と関わり・発達の連続性 | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第12章・第14章を読んだうえで、0～6歳くらいまでの発達(身体・ことば・社会性の発達など)を確認する。自分自身のこれまでの環境の変化や移行を振り返り、どのような就学援助ができるか考える。 | 55分 |
| 第12回 | テーマ 内容 | 子ども理解に基づく発達援助②: 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 | |
| | 授業外指示 | <予習><復習>教科書第13章を読み、特別なニーズを理解して支援することについて考える。 | 55分 |
| 第13回 | テーマ 内容 | 授業の振り返りとまとめ | |
| | 授業外指示 | 授業内で作成した発表資料を整理してポートフォリオに綴じる。 | 55分 |

課題に対するフィードバックの方法

授業で行う課題・グループワークは、毎回授業内で、forms等を通じて提出する。提出された内容は、その場、もしくは次回授業時に口頭やプリントにてフィードバックを行う。